

## 1. 木質バイオマス関連情報

■国際シンクタンクの世界経済フォーラム（スイス、以下「WEF」）が調査報告書を公表。環境に配慮した再生可能エネルギーの拡大や、誰もが入手できるエネルギー供給に向けた世界の動きに進展はあるものの、そのペースは大きく鈍っているとしている。WEF のチームは脱化石燃料のための再エネ拡大や省エネの進展のほか、各国の政策や投資、公平なエネルギー利用ができていかなど 46 の指標をもとにエネルギー転換の度合いを数値化。進展を毎年、評価している。世界 120 カ国のエネルギー転換を数値化したランキングではスウェーデンが 1 位。2 位デンマーク、3 位フィンランドと、再エネの導入やエネルギーの効率的利用が進む北欧諸国が上位を占めた。日本は再エネの導入が欧州諸国に比べて遅れ、輸入資源に依存した結果エネルギー価格が高騰したことなどから評価が低く、26 位に。再エネへの投資が進む中国やブラジルより順位が低かった【福島民友新聞：2024/06/23】

<https://www.minyu-net.com/newspack/detail/2024062301000495>

■スウェーデンで地域熱供給などのエネルギー事業に取り組むストックホルム・エクセルギ社が、2028 年から 2030 年にかけて約 4,860 万ドル相当の炭素除去に関する契約を締結。購入は、Frontier（フロンティア）が Stripe、Alphabet、Shopify、Meta、JP モルガン・チェース、H&M、マッキンゼー・サステナビリティなどの顧客に代わって実施。フロンティアは 2022 年 4 月に Shopify、Stripe、Alphabet、Meta および マッキンゼー・サステナビリティの 5 社が、事前買取制度をもとにした永久的炭素除去技術の開発を加速するために創設した連合体。ストックホルム・エクセルギ社は、2019 年からスウェーデン国内のヴェルタン地域にあるバイオ燃料火力発電プラントに BECCS プラントを建設する計画を進めており、今年 3 月に本格的な施設の環境許可を取得。CO<sub>2</sub> の回収、液化、中間貯蔵施設の建設は 2025 年に開始する予定。工場が稼働すれば毎年最大 80 万 t の CO<sub>2</sub> が大気中から永久に除去され、北欧地域の地層に永久貯蔵される計画。マイクロソフト社（米国）も、今

年 5 月に同社と 333 万 t もの炭素除去について 2028 年から 10 年間の契約を締結している【ESJ Journal：2024/06/27、PR TIMES：2022/04/13、ASUENE MEDIA：2023/11/30、stockholm exergi：2024/05/06】

<https://esjournaljapan.com/world-news/39801>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000089.000034630.html>

<https://earthene.com/media/1525>

<https://www.stockholmexergi.se/en/nyheter/stockholm-exergi-tecknar-varldens-hittills-storsta-avtal-med-microsoft-for-permanent-minusutslapp/>

■住友理工（株）（愛知）、愛知県小牧市にある同社技術研究所「テクノピア」の電力を実質再生可能エネルギー100%へ。同社は JFE エンジニアリング（株）（東京）グループのアーバンエナジー（株）（神奈川）ならびに J&T 環境（株）（神奈川）、J&T 環境子会社の（株）バイオス小牧（愛知）と連携し、カーボンニュートラル実現に向けた取り組みの一環として 6 月より切り替えを実施。今回のスキームではアーバンエナジーの電力プランで、再エネ指定の非化石証書等を使用することで CO<sub>2</sub> 排出係数をゼロとし、実質的に再エネ 100%で電気を供給する「ゼロエミプラン®」と、アーバンエナジーが廃棄物から発電した電力を買い取り、廃棄物の発生元施設へ供給する場合に廃棄物量に応じて電力料金を割り引く「創電割®」の二つを活用。住友理工小牧本社・製作所内の食堂で排出された食品廃棄物（約 50t/年）について J&T 環境が廃棄物コーディネートを行い、バイオス小牧でメタン発酵、リサイクル発電を実施。発電した電力はアーバンエナジーが買い取り、住友理工技術研究所の使用電力へ充当する。バイオス小牧は、出力 1.1MW のバイオガス発電設備を 2023 年 2 月から稼働。廃棄物処理能力は 120t/日、発電量は最大 9200MWh/年。また、メタン発酵の過程で発生した発酵残渣は肥料の原料として活用する。これによる年間の CO<sub>2</sub> 排出削減量は約 1,500t となる見込み【メガソーラービジネス：2024/06/26、住友理工（株）：2024/06/13】

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/04291/?ST=msb/>

<https://www.sumitomoriko.co.jp/news/2024/hqcopu00000017sp-att/n51910730.pdf>

■綿半ホールディングス（株）（長野、以下「綿半 HD」）、長野県飯田市と「龍江インター産業団地」の土地売買仮契約書に調印したと発表。同団地は三遠南信自動車道龍江インターチェンジ（長野県飯田市）に近接し、自然環境に恵まれた新たな産業団地として 2022 年度に 2 区画（約 2ha）の整備が完了。今回綿半 HD が立地企業として選定され、調印に至った。今後は飯田市周辺の林業事業者と連携し、「信州 F・POWER プロジェクト」に必要なバイオマス発電用チップ供給のための集材・破碎を行う拠点として活用する。将来的には木材加工全般の拠点として整備し、木造建築事業の拡大を図る【綿半ホールディングス（株）：2024/06/27】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3199/tdnet/2466901/00.pdf>

■福島県飯館村蕨平行政区に新設された木質バイオマス発電施設「飯館みらい発電所」が完成し、6 月 30 日に竣工式を開催。発電所は東京電力ホールディングス（株）（東京）、（株）熊谷組（東京）、（株）神鋼環境ソリューション（兵庫）、東京パワーテクノロジー（株）（東京）が出資し、2020 年 6 月に設立した飯館バイオパートナーズ（株）（福島）が運営。総事業費は約 100 億円。飯館村が全面積の 7 割を占める森林の再生などを目的に発電所を誘致し、国の福島再生加速化交付金約 62 億円をあてた。同村を中心に東日本大震災と東京電力福島第 1 原発事故により被災した 12 市町村や県内各地から、間伐材や樹皮など約 9 万 5,000t/年を収集し燃焼させる計画で、発生した蒸気でタービンを回して発電する。発電出力は 7,500kW、年間発電量は 5,300 万 kWh（一般家庭約 1 万 7,000 世帯分に相当）、FIT を通じて東北電力（株）（宮城）に売電する。放射性物質を含む木材も使用することから、IBP 側は安全対策として、飛灰を捕集するフィルター装置を 2 台設置するほか、排気ダクト手前の燃焼ガスの放射性物質濃度や敷地内での空間線量を常時監視して公表するとしている。同社によると、木質バイオマス発電所で布フィルターを二重に設けているのは全国初だという。8,000 ベクレル/kg 以下の飛灰は通常の産業廃棄物として処理するが、基準を超えた場合は法律に基づき指定廃棄物として取り扱う。村や県の有識者、近隣市町村などによる「飯館みらい

発電所地域協議会」も発足しており、運用状況などを定期的に確認していく。7 月中旬営業運転開始予定【福島民友、福島民報：2024/07/01、飯館バイオパートナーズ（株）：2024/07/02、朝日新聞：2024/07/10】

<https://www.minyu-net.com/news/detail/2024070121043>

<https://www.minpo.jp/news/moredetail/20240701117550>

<http://www.iitate-bp.co.jp/posts/news45.html>

<https://www.asahi.com/articles/ASS7945PTS79UGTB00JM.html>

■スズキ（株）（静岡）のインド子会社マルチ・スズキ・インディア社（以下、「マルチ・スズキ」）は、同国のハリヤナ州マネサル工場にて、バイオガス精製のための試験的プラントを設置。2024 年 6 月より稼働開始。同施設は実用プラントとほぼ同等の機能を持った試験的なパイロットプラントで、マネサル工場の敷地内で栽培されたネピアグラスと呼ばれるイネ科の多年草、および工場食堂で出た残飯を原料に発生したバイオガスを同プラント内で精製し、工場の食堂での調理や生産工程で活用する。残渣は有機肥料として工場内でネピアグラスの栽培等に使用。0.2t/日のバイオガス精製を見込んでおり、このガスの活用によって約 190t/年の CO<sub>2</sub> を削減する見込み【スズキ（株）：2024/07/01】

<https://www.suzuki.co.jp/release/d/2024/0701/>

■東京発電（株）（東京）が北茨城市で建設中だった木質バイオマス発電所が 7 月 1 日に運開。「北茨城バイオマス発電所」は市が策定している北茨城市都市計画マスタープランにて産業拠点に指定されている磯原工業団地に位置し、同市周辺の間伐材や林地残材等の未利用材を木質チップ（約 2.8 万 t/年）にして使用する木質専焼バイオマス発電所。最大出力は 1,990 kW、発生電力量は約 13,740MWh/年（一般家庭約 3,500 世帯分の電力需要相当）で FIT を活用し東京電力パワーグリッド（株）（東京）に売電する。2022 年 10 月 14 日に営業運転を開始した鳥取県境港市にある境港バイオマス発電所の建設で実績のある（株）東京エネシス（東京）が発電所建設工事の EPC を一括受注し、2023 年 2 月から新設工事を実施していた。東京発電は水力発電ではプロフェッショナルだが木質バイオマス発電所は今回が初【OSR No.615：2024/07/03、東京発電（株）：2024/07/01、（株）東京エネシス：2023/03/24】

<https://tokyohatsuden.co.jp/company/news/1488/>

<https://www.qtes.co.jp/ir/document/news/1084/>

■バイオマスパワーテクノロジーズ（株）（三重）、経産省「令和 4 年度補正スマート保安導入支援事業費補助金」を活用し、（株）BM エコモと共同製作したバイオマス発電所運転支援システム「BMecomo」に蓄積されたデータを大規模言語モデル（LLM）で利活用する保安支援機能「BM-GPT」を構築。(1) 既存の BMecomo システムのデータベースに蓄積されているプロセス値データを、LLM を使って検索する機能(2) 社内サーバー中に保管されている PDF 形式の保全記録を、LLM を使って検索する機能(3) 上記検索を行うための UI としてのチャットボット開発、といった機能を持つ。BM-GPT を導入することにより、木質バイオマス発電所におけるトラブルの早期復旧、発電停止時間の最小化への一助になるとしている【PR TIMES：2024/07/05】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000114663.html>

■東京大学森林利用学研究室の研究グループが、必要となる燃料の量が集中型よりも少なく済む地産地消型の小型木質バイオマスガス化発電に着目し、地域内に複数存在する小規模分散型発電所が集中型発電所よりも有利になる条件を明らかに。この研究では 6 市 3 町から構成される静岡県富士森林計画区をモデル地域に設定。地域内の未利用材の年間発生量と未利用材の供給コストを算出するとともに未利用材を燃料とする発電所を、地域内で 1 箇所に集約する場合(集中型)と、各市町に 1 基ずつ配置する場合(分散型)の 2 つのケースで想定。両者の燃料コストと発電コストを推計した結果、分散型の方が未利用材の単位重量あたりの燃料コストが安くなることが分かった。また燃料供給コストに発電所の建設・運用にかかる発電コストを加えた総コストでは分散型の方が高くなるが、発電時に発生する熱を売却した収益を総コストに加味できるとした場合、条件によっては分散型の方がコスト面で有利になることを突き止めている。地域におけるバイオマス利用計画の策定に資する研究内容となっている【東京大学大学院：2024/07/03】

[https://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/topics\\_20240703-2.html](https://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/topics_20240703-2.html)

■大阪府泉佐野市、市内に開設予定の木質バイオマス発電所について、企業版ふるさと納税による寄付募集を開始したと発表（7 月 8 日）。同市では未利用のまま山林に残置される間伐材などが 100t/年以上発生している。この未利用木材をチップに加工して燃料とし、約 5 万 7,000kWh/年の発電を目指す。CO<sub>2</sub>

削減効果は約 20t/年の見込み。企業版ふるさと納税は、企業が地方創生につながる自治体事業に寄付することで、寄付額の最大約 9 割を法人関係税から軽減される仕組み。寄付額は 1 回あたり 10 万円以上が対象で、備品などの現物を用いた物納も対象。市の木質バイオマス発電プロジェクトへ寄付する企業は税額控除を受けられるほか、環境問題への取り組みもアピールできる。同プロジェクトの事業費は 2 年間で 1 億円超を想定し、その多くを企業版ふるさと納税で賄うことを見込んでいる。泉佐野市は、2050 年温室効果ガスの実質排出量ゼロをめざして宣言しており、今回のプロジェクトもその一環【メガソーラー

ビジネス：2024/07/09、大阪府泉佐野市：2024/07/08】  
<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/04325/?ST=msb>

<https://www.city.izumisano.lg.jp/material/files/group/19/PR20240708.pdf>

■能登半島地震の災害廃棄物、新潟県糸魚川市にあるデンカ（株）（本社・東京）の青海工場で発電燃料に。能登半島地震で倒壊した建物の公費解体で発生した木くず 2,000 m<sup>3</sup>が石川県能登町の宇出津（うしつ）港から海上輸送され、7 月 11 日に新潟県糸魚川市の姫川港に到着。地震後、石川県から災害廃棄物が県外へ海上輸送されるのは初。糸魚川市内で破碎処理してから、港近くにあるデンカの青海工場でバイオマス発電施設の燃料として使われる予定。同工場セメント部門でバイオマスボイラの商業運転を開始したのは 2003 年 3 月。発電施設は NEDO からの補助金を受けて建設。木くず（建設廃材）および廃プラスチックを燃料として燃焼。発生蒸気を既設のセメント工場の廃熱発電設備に送り込み、発電量を増加させるとともに、3,000kW の発生電力は青海工場内の自家発電を主体とした電力系統に組み込むなど、発電事業開始当初から廃棄物・副産物資源化技術を最大限に活用し、各種廃棄物・副産物の受け入れに積極的に取り組んでいる【新潟日報：2024/07/11、デンカ（株）：2003/07/30】

<https://www.niigata-nippo.co.jp/articles/-/438222>

<https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/54/030328bio.pdf>

■NEDO、2024 年度「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業／早生樹等による燃料用国産木質バイオマス生産・供給の普及に向けた調査」に係る実施体制について決定し、公表。公募を実施し、提案され

た4件の中から三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)  
(東京)に決定した。実施期間は2024年度【NEDO:  
2024/07/16】

[https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3\\_100398.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100398.html)

■(株)奥村組(大阪)、神鋼商事(株)(大阪)、国立大学法人室蘭工業大学(北海道)の三者が、木質バイオマス発電所から発生する木質系バイオマス燃焼灰の有効活用に向けた共同研究を開始。畜産業に甚大な被害をもたらす鳥インフルエンザや豚熱等の伝染性疾病への対策には、強アルカリ性で、高い消毒効果を有する消石灰が消毒剤として一般的に使用されているが、燃焼灰も水に濡れると消石灰と同様に強アルカリ性を示すことに着目。消石灰の代替材としての有効活用を目指した研究を開始することに。共同研究では奥村組が出資する石狩バイオマス発電所で発生した燃焼灰について、消毒効果の有無、効果発現までの時間、持続性等を確認・評価し、家畜伝染性疾病予防用資材としての可能性を検討。室蘭工業大学大学院工学研究科山中真也教授が過去に得られた消毒効果に関する知見を提供。神鋼商事は、石狩バイオマス発電所で使用する木質バイオマス燃料の供給を担当しており、燃焼灰の消毒材としての商品化と販売について協力する【PR TIMES:2024/07/16】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000023.000126184.html>

■秋田県大潟村で、もみ殻を燃料とするバイオマス地域熱供給プラントが竣工。シン・エナジー(株)(兵庫)が(株)オーリス(秋田)より建設工事(EPC)を受注し工事を進めていたもので、7月17日に竣工式を開催。大潟村は「2050年自然エネルギー100%の村づくりへの挑戦!」を掲げ、2022年4月に環境省「第一回 脱炭素先行地域」の一つに。同プロジェクトでは村内で大量発生するもみ殻約14,000t/年のうち約1,800t/年を燃料として、デンマークのLinka Energy A/S社製バイオマスボイラで熱エネルギー(90℃の温水)に転換し、村内3.5kmにわたって地中に埋設した熱導管を通じてホテルや温泉施設に熱供給を行う。熱供給の配管は保温性が優れ、かつ漏洩検知機能のあるデンマークのLOGSTOR INTERNATIONAL Sp.z o.o.社製熱導管を導入。さらに、フランスのSchneider Electric社製のシステムを導入することで、ボイラおよび熱導管、熱供給施設のリアルタイムデータを高速で収集し、ユーザーが必要とする情報を迅速に可視化できるといった最先端のDXシステムを備えて

いる。これにより約1,550t/年のCO<sub>2</sub>排出量を低減できるほか、副産物として生まれる「もみ殻燻炭」の活用やJ-クレジット制度の活用も実現見込みとなっている。総事業費は約12億円で(株)秋田銀行がつなぎ資金を含め約12億円を融資。運開は8月1日、商用運転開始は10月の予定【PR TIMES:2024/07/18、(株)秋田銀行;2024/07/17】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000092.000025041.html>

<https://www.akita-bank.co.jp/showimage/pdf?fileNo=7286>

■西部ガス(株)(福岡)、阿蘇バイオマス合同会社(熊本)を投資対象とするバイオマス投資ファンド合同会社(東京)への匿名組合出資を実施(7月17日)。出資比率と金額は非公表。西部ガスグループがバイオマス発電事業に出資参画するのは今回が初。阿蘇バイオマス合同会社は、GIキャピタル・マネジメント(株)(東京)が、地元銀行によるプロジェクト・ファイナンスによる融資と地域創生に共感した投資家からの出資により事業資金を調達し、今年5月に組成。熊本県阿蘇市跡ヶ瀬地区において発電容量900kW、想定年間発電量約700万kWh/年(一般家庭約1,940戸の年間電力使用量に相当)の「阿蘇バイオマス発電所」を開発中。発電所は燃料に阿蘇地域の間伐材等を使用し、URBAS社(オーストリア)製ガス化発電設備を採用。発電の際に生じた熱を燃料となる木質チップの乾燥に利用するほか、パーク、規格外の木質チップ、バイオ炭といった副生成物も有効活用を検討するとしている。発電所は2024年7月着工、2025年中に運開予定【西部ガス(株):2024/07/17、電気新聞:2024/07/18、GIキャピタル・マネジメント(株):2024/06/13】

[https://hd.saibugas.co.jp/news\\_release/detail/2024/nr011.html](https://hd.saibugas.co.jp/news_release/detail/2024/nr011.html)

<https://www.denkishimbun.com/archives/372332>

<https://www.gicamltd.com/news/790>

■(株)TOWING(愛知)と(株)日本農業(東京)、高機能バイオマス炭「宙炭(そらたん)」を活用した根域制限栽培によるシャインマスカット栽培の実証を開始したことを発表(7月17日)。TOWINGは地域の未利用バイオマスの炭化物に同社が保有する土壌由来の微生物群を効率的に選別・培養することで、高機能バイオマス炭の宙炭を開発し、その販売も行っている。一方の日本農業は、農業の生産から販売までを一気通貫で担うことで産業の構造転換を目指すスタートアップ。子会社のジャパ



ングレーブが 2023 年から根域制限栽培のブドウ園地を運営している栃木県宇都宮市の遊休農地を活用し、実証を行う。シャインマスカットの苗木 10 本に対し 125L の宙炭を施用。これにより 14.4kg の温室効果ガス削減効果が見込まれるとしている。共同で生育調査を実施し、2025 年 9 月頃にはシャインマスカットの収穫を予定。両社は今回の実証を通じて、収穫量増加や品質向上に加え、環境負荷低減によるサステナブルな農業の実現を目指す【TECH+：2024/07/17】

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240717-2987551/>

■木質廃棄物の再資源化処理と木材チップ販売を主業とするフルハシ EPO（株）（愛知）、初の中期経営計画を発表。最終年度となる 2028 年 3 月期の目標として、売上高 150 億円、営業

利益 30 億円、営業利益率 20%（2024 年 3 月期は 11.9%）を掲げる。実現に向けた具体策として、再資源化工場に 4 カ年合計で約 100 億円を投資し、中日本エリア（愛知、岐阜、三重、滋賀）および東日本エリア（埼玉、千葉、神奈川、静岡）を中心に 16 カ所以上の工場新設を進める計画（現在は計 19 工場）。木質バイオマス取扱量を 100 万 t/年（2024 年 3 月期は 55 万 t/年）の体制にすることで、国内シェア約 10%を目指す【会社四季報 ONLINE：2024/07/19】

<https://shikihito.toyokeizai.net/news/0/776160>

※OSR：バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

## 2. ペレット関連情報

■富山県富山市割山（細入）の割山森林公園「天湖森」がサウナを備えたグランピング施設やソロキャンプエリアなどを新設し、6 月 1 日よりリニューアルオープン。天湖森は 1999 年 4 月に開園。自然に囲まれた敷地内でキャンプやバーベキューなどが楽しめ、昨年度は約 1 万 7 千人が訪れたが、施設の老朽化や近年のアウトドア市場の拡大を受け、昨年 6 月から工事を進めていた。当初は 4 月の利用開始を予定していたが、能登半島地震などの影響で資材の調達が遅れ、ずれ込んだ。5 月 28 日時点で工事費は約 4 億 9,900 万円。グランピング施設は 3 区画有り、それぞれにドーム型テント、木製で小屋型の「バレルサウナ」、バーベキューテントを設置。バレルサウナは市内のスギを使用。さらに燃料の木質ペレット原料は富山市産のスギの間伐材で、森林資源の循環利用や林業の振興に繋がるよう意識しているとのこと。このサウナ付き 4 人用グランピングの料金は、1 泊（4 名利用）通常 4 万円から（プラン内容によって異なる）【北日本新聞社：2024/05/29、KNB WEB：2024/06/27、天湖森】

<https://webun.jp/articles/-/608629>

<https://www.knb.ne.jp/announcer/blog16/435/>

<https://tenkomori.info/>

■（株）レノバ（東京）連結子会社の合同会社石巻ひばり野バイオマスエネルギー（宮城、以下「IMH」）が保有・運営する石巻ひばり野バイオマス発電所が売電先を変更。2024 年 7 月 1 日

より FIP 制度を活用し、NTT アノードエナジー（株）（東京）への長期価格固定契約に基づく売電を開始。発電所は木質ペレットおよび PKS を燃料とし、発電出力は 75.0MW、想定年間発電量は約 53,000 万 kWh（一般家庭約 17 万世帯の年間使用電力量に相当）の発電所。2024 年 3 月の営業運転開始から FIT 制度に基づく一般送配電事業者への売電を行ってきたが、発電事業の収益性を向上させる観点から FIP への移行認定申請を行い、2023 年 11 月に経済産業大臣から認定を受けていた【（株）レノバ：2024/07/01】

[https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20240701\\_01\\_PRESS.pdf](https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20240701_01_PRESS.pdf)

[https://www.renovainc.com/business/power\\_plant/ishinomaki\\_hibarino\\_biomass/](https://www.renovainc.com/business/power_plant/ishinomaki_hibarino_biomass/)

■三洋貿易（株）（東京）と大日本ダイヤコンサルタント（株）（東京）が、6 月 27 日付で下川運輸（株）（北海道）が設立した「北の森グリーンエナジー（株）」に、約 33% ずつの比率で出資を完了。翌 28 日には北の森グリーンエナジーが、今年 3 月 31 日付で操業を休止した北海道バイオマスエネルギー（株）（北海道、以下「HBE」）と事業譲渡契約を締結。金額は非公表。HBE が運営する発電施設は下川と当別にあり、下川発電所は 2019 年に稼働。国産未利用材を活用するペレット製造工場と製造したペレットを燃料とする CHP 棟を持ち、発電最大出力は 1,815kW。当別は 2021 年に稼働し、下川で製造したペレット

を燃料に発電し、発電出力は 990kW。コロナ禍で世界的に木材供給が滞ったウッドショックにより採算が合わなくなり、両発電所共今年 3 月末で発電を休止。再開できるかが課題だった。三洋貿易は下川発電所のドイツ・ブルクハルト社製熱電併給（CHP）設備の導入に携わっており、ペレット工場や CHP 施設のメンテナンスを行う。下川運輸は HBE から委託を受けて発電施設を管理運営していたため、現場オペレーションを執行。大日本ダイヤは新会社に経営管理のノウハウを提供する。当面は規模の大きい下川の操業を優先。原木を近隣から集めるルートを確立し経営を軌道に乗せる方針で、来年 1 月に操業を開始する見通し。当別の発電施設は対応を検討中。三井物産（株）（東京）が 8 割、北海道電力（株）（北海道）が 2 割出資していた HBE は、7 月 3 日で解散することが判明。解散や清算時期については未定【三洋貿易（株）：2024/07/01、大日本ダイヤコンサルタント（株）：2024/07/04、北海道バイオマスエネルギー（株）、日本経済新聞：2024/07/03】

<https://www.sanyo-trading.co.jp/2024/07/01/kitanomori/>

<https://www.dd-con.co.jp/news/2024/20240704news.html>

<https://h-bio.co.jp/>

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0FC03A2N0T00C24A7000000/>

■（株）レノバ（東京）、御前崎港バイオマス発電所（静岡）の営業運転開始時期を変更したと発表。同社、中部電力（株）（愛知）、三菱電機フィナンシャルソリューションズ（株）（東京）、鈴与商事（株）（静岡）が出資して設立した合同会社御前崎港バイオマスエネルギー（静岡、以下「御前崎港 GK」）が保有する発電所。木質ペレットと PKS を燃料とし、発電出力 75.0MW、想定年間発電量は約 53,000 万 kWh（一般家庭約 17 万世帯の年間使用電力量に相当）。2024 年 7 月中の運転開始に向けて試運転を進めていたが、長期間の安定稼働に向けたボイラ・タービン設備の最終調整に時間を要しているため、2024 年 10 月中に営業運転開始時期を変更。事業の FIT 期間の変更手続きは完了しており、変更は生じない。発電所は東洋エンジニアリング（株）（千葉）と日鉄エンジニアリング（株）（東京）が EPC 業務を共同受注しており、御前崎港 GK は EPC 契約に基づく営業運転開始時期からの変更に伴い、一定期間は EPC から完工遅延損害賠償金を受領している【（株）レノバ：2024/07/08、ガスエネルギー新聞：2019/12/02】

[https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20240708\\_01](https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20240708_01)

[PRESS.pdf](#)

[https://www.renovainc.com/business/power\\_plant/omaezaki\\_kou\\_biomass/](https://www.renovainc.com/business/power_plant/omaezaki_kou_biomass/)

<https://www.gas-enenews.co.jp/gijutsu-shinseihin-hoan/8225/>

■武豊町の環境問題を考える会（愛知）、国際環境 NGO FoE Japan（東京）、（特非）気候ネットワーク（本部・京都）の 3 団体が、経産省に対し JERA 武豊火力発電所の火災・爆発事故と再稼働に関する要請書を提出。武豊火力発電所 5 号機は、石炭と木質ペレットを混焼している出力 107 万 kW の大型火力発電所で、今年 1 月 31 日に火災・爆発事故が発生。5 月 25 日に開催した住民説明会での JERA 側の説明は十分ではなく、とりわけ着火源となった投炭装置の不具合がなぜ発生したのかは JERA 側も「不明」としており、肝心な事故原因の究明には至っていない。また同発電所では、石炭と木質ペレットが同じ屋内式の貯炭場で保管され、同じベルトコンベアで運搬されていることも住民から安全性への疑問の声があがっている。さらに日本が海外から大量の木質ペレットを輸入していることから、生産国で天然林の伐採による生物多様性の破壊が生じていることについても指摘。これらのことから 3 団体は、JERA 武豊火力発電所の再稼働を認めないこと、石炭火力発電所へのバイオマス混焼を推進しないことの二点を要請【国際環境 NGO FoE Japan：2024/07/12】

<https://foejapan.org/issue/20240712/19488/>

■7 月 19 日午前 9 時半頃、北海道石狩市のバイオマス発電所「石狩新港バイオマス発電所」で爆発事故が発生。発電所の関係者が「施設が爆発した。屋根がとんでいる」「煙が見える」などと道警と消防に通報。近くにはたと見られる 50 代の従業員がやけどなどのけがを負い、意識がある状態で病院に搬送された。石狩バイオエネルギー合同会社（北海道）の 7 月 23 日の発表によると、この男性は入院加療中とのこと。7 月 19 日の 12 時 30 分頃消化活動により発煙は一旦収まり見回りを継続していたが、22 日 17 時 20 分頃燃料受入搬送設備内からの発煙を確認し、再度消防に通報。19 時 50 分頃消火活動終了となった。爆発が起きた石狩新港バイオマス発電所は、石狩湾新港工業団地内に所在しており、2023 年 3 月に営業運転開始。（株）奥村組（大阪）の連結子会社で九州電力グループなどが出資する石狩バイオエネルギーが運営。木質ペレットや PKS を燃料とし、発電出力は 5 万 1,500kW、年間発電電力量は約 3.6 億 kWh（一般

家庭約 11 万世帯分に相当)。燃料をトラックなどからいったん受け入れ、ホッパーと呼ばれる装置で受け入れた後に、コンベヤーなどでサイロに送るが、爆発はこの受け入れホッパー部分に木質ペレットを搬入中に起きたと見られる。発電所敷地外への延焼などはなく、原因などは現在調査中【日経 XTECH、朝日新聞：2024/07/19、石狩バイオエナジー合同会社：2024/07/23】

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/24/01213/>

<https://www.asahi.com/articles/ASS7M1DLYS7MIPE006M.html>

<https://www.iskrbio.jp/img/20240723press2.pdf>

### 3. イベント情報（国内）

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■とちぎペレット協同組合『『森林エネルギー事業』の説明と『移動式中型チップ』の実演』

2024 年 7 月 31 日（水）

説明会：芽登集落センター（北海道足寄郡足寄町芽登本町）

実演：とちぎペレット協同組合芽登ペレット工場（同上）

[https://www.facebook.com/photo.php?fbid=1008074001109125&set=a.591385832777946&type=3&ref=embed\\_page](https://www.facebook.com/photo.php?fbid=1008074001109125&set=a.591385832777946&type=3&ref=embed_page)

<https://labforest.jp/2024/07/24/%e6%a3%ae%e6%9e%97%e3%82%a8%e3%83%8d%e3%83%ab%e3%82%ae%e3%83%bc%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e3%81%a8%e7%a7%bb%e5%8b%95%e5%bc%8f%e4%b8%ad%e5%9e%8b%e3%83%81%e3%83%83%e3%83%91%e3%81%ae%e5%ae%9f%e6%bc%94%e4%bc%9a/>

※8 月 1 日（木）～2 日（金）も同会場にて実証試験を行う予定で、見学可（要連絡）。

◎ペレットクラブ「2024 年度ペレットクラブ通常総会」

2024 年 8 月 6 日（火）

Zoom オンライン

<https://pelletclub.jp/>

※会員には別途案内を送付予定

■木曾谷・伊那谷フォレストバレー運営協議会「木曾谷・伊那谷フォレストバレーキックオフフォーラム」

2024 年 8 月 8 日（木）

■欧州全域でバイオエネルギーを推進する非営利国際組織の Bioenergy Europe（ベルギー）、「The 2024 Pellet Report」を発行。毎年発行している統計レポートで、木質ペレットの生産と消費、動向、新しい燃焼機器、認証スキーム、その他ペレットに関する重要な情報を幅広く関係者に提供する内容となっている。会員は下記サイトよりダウンロード可。会員でない場合はサンプルレポートがダウンロード可能で、希望者は購入も可能【Bioenergy Europe：2024 年】

<https://bioenergyeurope.org/statistical-reports/>

木曾町文化交流センター（長野県木曾郡木曾町）

<https://www.pref.nagano.lg.jp/ringyo/happyou/20240712press.html>

■（一社）日本エネルギー学会「第 33 回日本エネルギー学会大会」

2024 年 8 月 7 日（水）～9 日（金）※9 日はテクニカルツアー

早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区）

<https://www.jie.or.jp/publics/index/964/>

■三菱重工パワーインダストリー（株）「子どもアドベンチャーカレッジ 2024」

2024 年 8 月 8 日（木）

三菱重工横浜製作所本牧工場構内（神奈川県横浜市）

<https://power.mhi.com/jp/group/ids/news/240611.html>

※横浜市内在住または在学の小学 5 年生、小学 6 年生が対象

■飛騨高山の木工房、オークヴィレッジ（株）「創立 50 周年記念事業ファイナル『森の夏まつり』」

2024 年 8 月 10 日（土）

オークヴィレッジ（株）高山本社（岐阜県高山市）

<https://www.atpress.ne.jp/news/403135>

■環境省令和 6 年度「はじめよう！地域再エネセミナー：第 3 回地域にあった再エネ導入を探る（太陽光、木質バイオマス熱利用、小水力、畜産・農業・水産バイオガス）」

2024 年 8 月 21 日（水）

[https://www.env.go.jp/press/press\\_03346.html](https://www.env.go.jp/press/press_03346.html)

※主な対象は自治体職員

■国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所多摩森林科学園「森林講座 気候変動と森の病気」

2024年8月22日(木)

多摩森林科学園森の科学館(東京都八王子市)

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2024/20240822tamalec/index.html>

■(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会「WOOD BIO 交流プラットフォーム 令和6年度現地見学会」

2024年8月22日(木)～23日(金)

8/22は北海道上川郡当麻町、8/23は同下川町

<https://jwba.or.jp/topics/events/topics20240520/>

■バイオマスボイラー・ユーザー協会準備会、NPO法人農都会議共催セミナー「バイオマスボイラー業界団体づくり～バイオマスボイラー・ユーザー協会準備会に期待すること～」

2024年8月29日(木)

オンライン開催(ZOOMなど利用)

<https://blog.canpan.info/bioenergy/archive/435>

■認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉「【第22回・環境問題の現況と将来を展望するセミナー】カーボンニュートラル&ネイチャーポジティブ～脱炭素と自然再興の同時達成を目指して～」

2024年9月3日(火)

大宮ソニックビル9F、906号室(埼玉県)/オンライン

<https://saiplat.pref.saitama.lg.jp/archives/1879>

■産経新聞社「FORESTRISE 2024(第4回次世代森林産業展)」

2024年9月18日(水)～9月20日(金)

東京ビッグサイト 東ホール(東京都江東区)

<https://www.forestrise.jp/2024/index.html>

■全国森林組合連合会「人財と林業を結ぶシンポジウム」

2024年9月19日(木)

東京ビッグサイト会議棟(東京都江東区)

[https://www.zenmori.org/topics/files/543\\_file1.pdf](https://www.zenmori.org/topics/files/543_file1.pdf)

◎RX Japan(株)「第22回 SMART ENERGY WEEK【秋】」

2024年10月2日(水)～4日(金)

幕張メッセ(千葉県千葉市)

<https://www.wsew.jp/autumn/ja-jp.html>

■(特非)地球緑化センター「参加者募集! / 10月開催 フェリーに乗って行く森林ボランティア◆東京都・三宅島」

2024年10月11日(金)夜発～13日(日)

東京都三宅島

<http://www.n-gec.org/news/2024-05-28.html>

■(一社)林業機械化協会「2024第47回全国育樹祭開催記念行事 森林・林業・環境機械展示実演会」

2024年10月20日(日)～21日(月)

福井県スキージャム勝山(福井県勝山市)

<https://www.rinkikyo.or.jp/news/view/150>

◎ペレットクラブ設立20周年記念シンポジウム「日本のペレット20年の歩みとこれからの社会」

2024年10月25日(金)

東京大学弥生講堂一条ホール(東京都文京区)

<https://pelletclub.jp/>

※詳細は近日中にWEB等で公開予定

◎RX Japan(株)「第12回 SMART ENERGY WEEK【関西】」

2024年11月20日(水)～22日(金)

インテックス大阪(大阪)

<https://www.wsew.jp/osaka/ja-jp.html>

◎RX Japan(株)「SMART ENERGY WEEK 春」

2025年2月19日(水)～21日(金)

東京ビッグサイト東・南ホール(東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/spring/ja-jp.html>

◎RX Japan(株)「BIOMASS EXPO バイオマス展」

2025年2月19日(水)～21日(金)

東京ビッグサイト東・南ホール(東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/hub/ja-jp/about/bm.html>



#### 4. イベント情報（海外）

##### ■FinnMETKO 2024

2024年8月29日（木）～31日（土）

ヤムサ（フィンランド）

<https://www.finnmetko.fi/>

##### ■Progress in Biogas VI

2024年9月2日（月）～4日（水）

シュトゥットガルト（ドイツ）

<https://ibk-biogas.com/schedule/progress-in-biogas/>

##### ■European Biomass to Power 2024

2024年9月11日（水）～12日（木）

ヘルシンキ（フィンランド）

<https://www.wplgroup.com/aci/european-biomass-to-power-2024-helsinki-agenda/>

##### ■North American SAF Conference & Expo

2024年9月11日（水）～13日（金）

ミネソタ州セント・ポール（USA）

<https://saf.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

##### ◎2024 Wood Pellet Association of Canada Conference

2024年9月17日（火）～18日（水）

BC州ビクトリア（カナダ）

<https://www.wpac-agm.org/>

##### ■24th Congress for Wood Energy

2024年9月23日（火）～24日（水）

ヴェルツブルク（ドイツ）

<https://www.fachkongress-holzenergie.de/>

■International Training Seminar: Sustainable Bioenergy Heating -  
Market development and technologies

2024年9月23日（火）～26日（金）

リンツ（オーストリア）

<https://www.cleantechcluster-energie.at/en/bioenergy-heating-2024>

##### ■6th BIOGAS POWER ON

2024年9月25日（木）～26日（金）

コペンハーゲン（デンマーク）

<https://fortesmedia.com/biogas-power-on-2024,4,en,2,1,100.html>

##### ■Transport Biofuels Conference

2024年9月25日（木）～26日（金）

オストルダ（ポーランド）

<https://kib.pl/en/konferencja-2/>

##### ◎Svebio Fuel Market Day

2024年9月30日（月）

ストックホルム（スウェーデン）/オンライン

<https://www.svebio.se/en/evenemang/svebio-fuel-market-day-3-2/>

##### ■Renewable Gas Trade Fair 2024

2024年10月1日（火）～2日（水）

バリャドリード（スペイン）

<https://salondelgasrenovable.com/en>

##### ■Indonesia Sustainable Biofuels

2024年10月2日（水）～3日（木）

ジャカルタ（インドネシア）/オンライン

<https://www.cmtevents.com/enquiry.aspx?ev=241028&>

##### ■Bio-Energy Pavilion 2024

2024年10月3日（木）～5日（土）

グレートノイダ（インド）

<https://biogas-india.com/bio-energy-pavilion-2024/>

■Value of Biogas West 2024

2024年10月7日(月)～9日(水)

バンクーバー(カナダ)

<https://biogasassociation.ca/vob2024west/>

■Biomass Power ON 2024

2024年10月9日(水)～10日(木)

コペンハーゲン(デンマーク)

<https://fortesmedia.com/biomass-poweron-2024,4,en,2,1,101.html>

■European Biomethane Week

2024年10月21日(火)～25日(土)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.europeanbiomethaneweek.eu/>

■BBEST- IEA Bioenergy Conference

2024年10月22日(水)～24日(金)

サンパウロ(ブラジル)

<https://bbest-ieabioenergy.org/>

◎USIPA 2024 Conference

2024年11月3日(日)～5日(火)

フロリダ州マイアミ(USA)

<https://usipaconference.com/>

■Ecomondo2024

2024年11月5日(火)～8日(金)

リミニ(イタリア)

<https://en.ecomondo.com/>

■COP29

2024年11月11日(月)～22日(金)

バクー(アゼルバイジャン共和国)

<https://unfccc.int/cop29>

■2024 National Carbon Capture Conference & Expo

2024年11月19日(火)～20日(水)

ミネソタ州セント・ポール(USA)

<https://2024->

[nccc.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home](https://nccc.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home)

■European Bioenergy Future

2024年11月20日(水)～21日(木)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://bioenergyeurope.org/events/11-events/415-ebf-european-bioenergy-future-2024.html>

■10th International Symposium on Energy from Biomass and Waste

2024年11月25日(月)～27日(水)

ヴェニス(イタリア)

<https://www.venicesymposium.it/>

■Future of Biogas Europe Summit 2024

2024年11月27日(水)～28日(木)

バルセロナ(スペイン)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/future-biogas-europe/>

■8th Biomass & BioEnergy Asia

2024年11月27日(水)～28日(木)

ホーチミン市(ベトナム)

<https://cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=241120&>

◎Nordic Pellets Conference 2025

2025年2月5日(水)～6日(木)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets-conference-2025/>

◎World Sustainable Energy Days 2025

2025年3月5日(水)～7日(金)

ヴェルス(オーストリア)

<https://www.wsed.at/>

◎International Biomass Conference & Expo

2025年3月18日～20日

ジョージア州アトランタ(USA)

<https://2025->

[ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home](https://ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home)

■EXPO BIOMASA

2025年5月6日（火）～8日（木）

バリャドリード（スペイン）

<https://www.expobiomasa.com/en/>

■Elmia Wood

2025年6月4日（水）～7日（土）

ヨンショーピング（スウェーデン）

<https://www.elmia.se/en/wood/>

5. 2024年度ペレットストーブ、ボイラ補助金情報（都道府県順）

※締切や公募の条件等の詳細は各自治体にお問い合わせください。

◇：ストーブ

◆：ストーブ・ボイラ共

【北海道】

◇北見市「令和6年度木質ペレットストーブ等導入支援事業」

<https://www.city.kitami.lg.jp/administration/life/detail.php?content=11162>

【福島県】

◇会津美里町「ペレットストーブ等購入設置補助金」

[https://www.town.aizumisato.fukushima.jp/material/files/group/3/R6hozyokin\\_itiran.pdf](https://www.town.aizumisato.fukushima.jp/material/files/group/3/R6hozyokin_itiran.pdf)

【埼玉県】

◇小川町「令和6年度小川町ゼロカーボンシティ推進補助金制度」

<https://www.town.ogawa.saitama.jp/cmsfiles/contents/0000005/5/5788/gaiyoubanpanfuretto.pdf>

【長野県】

◇中野市「ペレットストーブ等購入助成金」

<https://www.city.nakano.nagano.jp/docs/2020062400011/>

◇山形村「ペレットストーブ等購入事業補助金」

[https://www.vill.yamagata.nagano.jp/fs/1/7/2/7/1/7/\\_/Yamagata\\_561.pdf](https://www.vill.yamagata.nagano.jp/fs/1/7/2/7/1/7/_/Yamagata_561.pdf)

【京都府】

◇京丹後市「令和6年度京丹後市脱炭素重点対策加速化事業補助金」

<https://www.city.kyotango.lg.jp/top/soshiki/shiminkankyo/seikatsukankyo/3/4/2/20191.html>

【兵庫県】

◆丹波市「令和6年度薪ストーブ・薪ボイラー設置補助金」

<https://www.city.tamba.lg.jp/soshiki/kankyoka/gyomuannai/5/6/7602.html>

※対象は薪ストーブ、薪ボイラ

【熊本県】

◆南阿蘇村「令和6年度木質バイオマス燃料燃焼機器設置補助」

<https://www.vill.minamiaso.lg.jp/kiji003841/index.html>

◇三都町「住宅用薪ストーブ等設置費補助金」

<https://www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/kiji0039085/index.html>

※対象は薪ストーブ

6. 公募等情報（締切順）

■農林中央金庫第11回「農中森力基金」助成事業の募集

募集期間 2024年6月6日（木）～8月5日（月）

[https://www.nochubank.or.jp/news/news\\_release/2024/11-3.html](https://www.nochubank.or.jp/news/news_release/2024/11-3.html)

■（一財）環境イノベーション情報機構「令和6年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業）」

公募期間 2024年7月19日（金）～8月9日（金）

[https://www.eic.or.jp/eic/topics/2024/resi\\_r06/001/](https://www.eic.or.jp/eic/topics/2024/resi_r06/001/)

■（公社）環境生活文化機構「2024 年度持続可能な社会づくり活動表彰募集」

応募締切 2024 年 8 月 31 日（土）

<https://www.elco.or.jp/publics/index/29/>

■緑の地球防衛基金「2025 年度地球にやさしいカード助成金交付団体の募集」

募集期間 2024 年 8 月 1 日(木)～9 月 30 日(月)

[https://green-earth-japan.net/act\\_card.html](https://green-earth-japan.net/act_card.html)

■農水省「令和 6 年度バイオマス産業都市構想の提案を募集」

募集期間 2024 年 6 月 20 日（木）～10 月 31 日（木）

[https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/r\\_energy/240620.html](https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/r_energy/240620.html)

■（公財）滋賀県産業支援プラザ「令和 6 年度 省エネ・再エネ等設備導入加速化補助金」

受付期間 2024 年 4 月 30 日(月)～11 月 29 日(金)

<https://www.shigaplaza.or.jp/news/hojokin-co2-240430-1129/>

■広島県「令和 6 年度広島県創エネ・省エネ設備導入促進補助金の公募のお知らせ（幼稚園・保育所・認定こども園等対象）」

受付期間 ～2024 年年 12 月 20 日（金）まで

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/04setubihojokin.html>

■（公社）日本ナショナル・トラスト協会「第 20 期ナショナル・トラスト活動助成」

2024 年 4 月 1 日（月）～2025 年 3 月 31 日（月）

<http://www.ntrust.or.jp/subsidy/index.html>

■福島県福島市「燃油を使用しないハウス暖房設備等の導入費

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）」

[https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/s\\_houkougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html](https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/s_houkougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html)

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」

<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyou/kj00006264.html>

用を助成します」

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/nougyou-seisan/shigoto/noringyo/norinshinko/shisetuengei060401.html>

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/nougyou-seisan/shigoto/noringyo/norinshinko/shisetuengei060401.html>

※2025 年 3 月 31 日までに事業を完了すること

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県林業・木材産業改善資金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024041500181/>

■北海道「林業・木材産業改善資金」

[https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/05\\_rinkin/k002.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/05_rinkin/k002.html)

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共の施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■南砺市「木質ペレット燃料購入者支援補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=20558>

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=20558>

■千葉县市原市「企業の設備投資に対する奨励制度」

<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=60237827ece4651c88c1880a>

■NEDO「2024 年度『木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業／木質バイオマス燃料（チップ、ペレット）の安定的・効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業』に係る第 2 回公募について」【予告】

[https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1\\_100405.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100405.html)

※2024 年 8 月中旬から 1 カ月間公募予定



■NEDO「2024年度「新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業」(未来型新エネ実証制度)に係る公募について」【予告】

[https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1\\_100407.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100407.html)

※2024年8月上旬～2024年9月中旬公募予定